

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校給食運営事業			決算書頁	316
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	37 児童・生徒の健康を守ります				
所管部・課	教育推進部	学務課	作成者	課長 志波 仁史	

2. 事業の目的

栄養バランスのとれた豊かな食事を提供し、身体的健康の増進、正しい食習慣の形成を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	440,200	441,173	△ 973	一般財源	432,700	441,173	△ 8,473
内 事業費	122,449	111,499	10,950	国県支出金			
内 職員人件費	314,266	324,527	△ 10,261	地方債	7,500		7,500
内 公債費	3,485	5,147	△ 1,662	特定財源 (都市計画税)			
参考 職員数 (人)	36	37	△ 1	特定財源 (その他)			
再任用職員数 (人)	1		1				

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校給食運営事業	細事業事業費 (千円)	122,449																											
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)																														
(2) 29年度の取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ●安全・安心でおいしい給食の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・自校調理において、栄養バランスのとれた給食を年間180回実施した。 完全給食実施食数 (16小学校) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食実施食数</td> <td>1,612,608食</td> <td>1,583,027食</td> <td>1,559,142食</td> <td>1,538,049食</td> <td>1,504,399食</td> </tr> </tbody> </table> ・週5日の完全米飯給食に合わせ、手づくりこだわった和食中心の献立を提供した。(正しい食習慣の形成) ・「川西市立学校園アレルギー対応運用マニュアル」等に基づく適切な対応を図った。(手堅い手順の確立) ・すべての食材の生産地をホームページで公表した。(情報公開の徹底) ・安全に給食を実施するために、必要な修繕や設備の保守点検、厨房機器の更新等を実施した。 ・ガス回転釜80台の内、老朽化したガス回転釜61台を更新した。 			年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	給食実施食数	1,612,608食	1,583,027食	1,559,142食	1,538,049食	1,504,399食															
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																									
給食実施食数	1,612,608食	1,583,027食	1,559,142食	1,538,049食	1,504,399食																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主な施設設備整備</th> <th>校数</th> <th>学校名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校給食用昇降機大規模修繕</td> <td>1校</td> <td>清和台南小</td> </tr> <tr> <td>厨房室排水、給湯、給水管漏水修繕</td> <td>2校</td> <td>東谷小、北陵小</td> </tr> <tr> <td>厨房室グリストラップ修繕</td> <td>2校</td> <td>東谷小、牧の台小</td> </tr> <tr> <td>調理従事員用トイレを洋式に変更</td> <td>2校</td> <td>川西北小、緑台小</td> </tr> <tr> <td>手洗い設備修繕及び増設</td> <td>2校</td> <td>川西北小、清和台小</td> </tr> <tr> <td>食器洗浄機更新</td> <td>1校</td> <td>緑台小</td> </tr> <tr> <td>ボイラーをガス給湯器に更新</td> <td>1校</td> <td>川西小</td> </tr> <tr> <td>ガス回転釜更新 (61台)</td> <td>16校</td> <td>全校</td> </tr> </tbody> </table>	主な施設設備整備	校数	学校名	学校給食用昇降機大規模修繕	1校	清和台南小	厨房室排水、給湯、給水管漏水修繕	2校	東谷小、北陵小	厨房室グリストラップ修繕	2校	東谷小、牧の台小	調理従事員用トイレを洋式に変更	2校	川西北小、緑台小	手洗い設備修繕及び増設	2校	川西北小、清和台小	食器洗浄機更新	1校	緑台小	ボイラーをガス給湯器に更新	1校	川西小	ガス回転釜更新 (61台)	16校	全校	 <p>ガス回転釜</p>	
主な施設設備整備	校数	学校名																												
学校給食用昇降機大規模修繕	1校	清和台南小																												
厨房室排水、給湯、給水管漏水修繕	2校	東谷小、北陵小																												
厨房室グリストラップ修繕	2校	東谷小、牧の台小																												
調理従事員用トイレを洋式に変更	2校	川西北小、緑台小																												
手洗い設備修繕及び増設	2校	川西北小、清和台小																												
食器洗浄機更新	1校	緑台小																												
ボイラーをガス給湯器に更新	1校	川西小																												
ガス回転釜更新 (61台)	16校	全校																												

- ・衛生管理、危機管理、食育等の研修会に参加し、職員の意識・知識の向上を図った。
- ・「川西市学校給食安全管理指針」の活用や研修会の実施を通じて、安全衛生管理を徹底した。

●食育の推進

- ・旬の食材を中心に、日本の食文化を知ることができる献立を提供した。（年20数回に及ぶ献立検討会の実施）
- ・栄養教諭や調理師が喫食状況を把握し、献立や調理方法を改善した。（年11回に及ぶ調理説明会の実施）
- ・子どもたちが自ら“食”を選択する力を、教育の一環として育成した。

●地産地消の推進

- ・可能な限り県内産、市内産食材を確保し、地域食材を活用した。
- ・JA兵庫六甲と連携し、市の特産物や地元の食材を使用した。

●家庭や地域との連携・交流の促進

- ・保護者試食会や「給食だより」などを通じ、家庭との連携を図った。（学校給食の情報の発信）
- ・高齢者との「ふれあい給食」や未就学児童の給食体験などの交流を行った。（学校給食の社会的貢献）

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>週5回の完全米飯給食を実施し、栄養バランスのとれた食事を提供し、身体的健康の増進、正しい食習慣の形成につながった。</p> <p>また、安全で確実な運用を図るため、アレルギー等のある児童については「川西市立学校園アレルギー対応運用マニュアル」等に基づき、市内16校全てで適切に対応した。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>安全・安心の学校給食実施のために、衛生面・安全面でのリスクを回避するため、老朽化した施設・設備の修繕または更新が必要である。優先順位を見極め、状況に応じた対応を検討する必要がある。</p> <p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>安全・安心の学校給食を安定的に進めるため、より一層の安全確保に向け、「川西市立学校園アレルギー対応運用マニュアル」等の徹底を図るほか、経年劣化に伴う施設及び機器の改善を行い、文部科学省「学校給食衛生管理基準」に適合した環境への改善・整備を進める。</p> <p>また、引き続き、地産地消の取り組みを進め、自校調理方式で完全米飯給食を実施する。</p>						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	児童健康管理事業		決算書頁	318
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	37 児童・生徒の健康を守ります			
所管部・課	教育推進部	学校教育課	作成者	課長 西門 隆博

2. 事業の目的

市立小学校の児童の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	41,971	41,256	715	一般財源	38,750	37,995	755
内 事業費	33,365	32,485	880	国県支出金			
内 職員人件費	8,606	8,771	△ 165	地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	1	1		特定財源(その他)	3,221	3,261	△ 40
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	児童健康管理事業	細事業事業費(千円)	33,365
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携		
(2) 29年度の取組と成果	<p>学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、児童の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期健診 内科、眼科、耳鼻科、歯科検診を実施した。(5月～6月) ・ 検査 尿検査の実施。(6月) ・ 事故対策 日本スポーツ振興センターの災害共済に加入。 ・ 定期健康診断の検診項目 <ul style="list-style-type: none"> ①身長、体重 ②栄養状態 ③脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無 ④四肢の疾病及び異常の有無 ⑤視力及び聴力 ⑥眼の疾病及び異常の有無 ⑦耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無 ⑧歯及び口腔の疾病及び異常の有無 ⑨結核の有無 ⑩心臓の疾病及び異常の有無 ⑪尿腎臓疾患の有無 ⑫その他の疾病及び異常の有無 		

- ・各校において、学校保健の問題に対し、学校医からの助言や学校保健委員会を通じての啓発などを行った。
- ・学習指導要領に基づく保健学習と健康実態に応じた保健指導を中心に保健教育を進めている。
- ・発達段階に応じた保健教育を実施し生涯にわたって主体的に健康づくりができるよう指導を進めた。

項目	学年	受診者数(名)	有所見者数(名)	有所見者率(%)
内科検診	全体	8,071	4,046	50.1%
	1年生	1,331	574	43.1%
	2年生	1,257	583	46.4%
	3年生	1,439	760	52.8%
	4年生	1,341	701	52.3%
	5年生	1,367	700	51.2%
	6年生	1,336	728	54.5%
尿検査	全体	8,071	89	1.1%
	1年生	1,331	21	1.6%
	2年生	1,257	7	0.6%
	3年生	1,439	10	0.7%
	4年生	1,341	15	1.1%
	5年生	1,367	17	1.2%
	6年生	1,336	19	1.4%
眼科検診	全体	2,672	109	4.1%
	1年生	1,331	49	3.7%
	4年生	1,341	60	4.5%
耳鼻科検診	全体	2,672	451	16.9%
	1年生	1,331	241	18.1%
	4年生	1,341	210	15.7%
歯科検診	全体	8,071	2,085	25.8%
	1年生	1,331	205	15.4%
	2年生	1,257	247	19.6%
	3年生	1,439	389	27.0%
	4年生	1,341	381	28.4%
	5年生	1,367	455	33.3%
	6年生	1,336	408	30.5%

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>学校保健安全法に則り、学校医と連携して実施することができた。また、養護教諭が、学校保健運営に関して怪我や病気の対処法等について研究協議を行い学校保健の充実に取り組むことができた。</p> <p>児童の健康診断の内容が一部変更されたことに伴い、新たな健康診断がスムーズに実施できるよう医師会との連携を密に行った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>教職員が、健康診断の結果を分析し、児童の体型や健康状態などについて、情報を共有しながら、健康で安全な教育活動の充実に努めること。</p> <p>また健康診断の結果を児童・保護者に伝え、心身の健康および基本的な生活習慣の重要性を啓発し、健康についての関心を高めるよう促す。</p> <p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>学校医・学校歯科医・学校薬剤師との協力体制を推進するとともに、健康診断の結果をもとに、保護者と協力しながら児童の健康の増進をさらに図っていく。</p> <p>保護者や教職員に、この事業の目的及び結果を理解・意識させ、発達段階に応じて内容を工夫した健康教育に取り組むこと。</p>						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校給食運営事業			決算書頁	324
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	37 児童・生徒の健康を守ります				
所管部・課	教育推進部	学務課	作成者	課長 志波 仁史	

2. 事業の目的

ミルク給食によりカルシウムを補給するとともに、完全給食の実施に向けた検討を進める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	15,526	10,275	5,251	一般財源	15,526	10,275	5,251
内 事業費	6,920	1,504	5,416	国県支出金			
内 職員人件費	8,606	8,771	△ 165	地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	1	1		特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校ミルク給食運営事業	細事業事業費(千円)	1,963																														
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																																	
(2) 29年度の取組と成果	<p>●ミルク給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校7校の生徒を対象にミルク給食を提供した。 ・学校教育活動の中で牛乳を摂取することにより、成長期において重要な栄養であるにも関わらず日常的に不足しがちなカルシウムを補填できるよう実施した。 <p>ミルク給食実施本数等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒数(A)</td> <td>4,337人</td> <td>4,394人</td> <td>4,380人</td> <td>4,251人</td> <td>4,123人</td> </tr> <tr> <td>年間実施本数(B)</td> <td>415,579本</td> <td>403,851本</td> <td>391,394本</td> <td>386,817本</td> <td>381,704本</td> </tr> <tr> <td>1人あたり年間摂取本数(C)=(B)/(A)</td> <td>96本</td> <td>92本</td> <td>89本</td> <td>91本</td> <td>93本</td> </tr> </tbody> </table> <p>・安全にミルク給食を実施するために、冷蔵設備の点検を実施し、必要に応じて更新した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な施設設備整備</th> <th>校数</th> <th>学校名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>牛乳保冷庫更新</td> <td>1校</td> <td>川西中</td> </tr> </tbody> </table>			年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	生徒数(A)	4,337人	4,394人	4,380人	4,251人	4,123人	年間実施本数(B)	415,579本	403,851本	391,394本	386,817本	381,704本	1人あたり年間摂取本数(C)=(B)/(A)	96本	92本	89本	91本	93本	主な施設設備整備	校数	学校名	牛乳保冷庫更新	1校	川西中
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																												
生徒数(A)	4,337人	4,394人	4,380人	4,251人	4,123人																												
年間実施本数(B)	415,579本	403,851本	391,394本	386,817本	381,704本																												
1人あたり年間摂取本数(C)=(B)/(A)	96本	92本	89本	91本	93本																												
主な施設設備整備	校数	学校名																															
牛乳保冷庫更新	1校	川西中																															

<細事業2>	中学校給食実施準備事業	細事業事業費(千円)	4,957																			
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																						
(2) 29年度の取組と成果																						
● 中学校7校の完全給食実施に向けて、センター方式実現可能性調査を実施した。																						
センター方式実現可能性調査の結果概要(調査期間:平成29年11月~平成30年3月)																						
(1) 調査における諸条件設定																						
調理能力:4500食 敷地規模:4361㎡(旧中池+久代出張所跡地)																						
(2) 調査結果の概要																						
①給食センターの施設規模等																						
延床面積:3590㎡(1階=1530㎡・2階=1390㎡・3階=670㎡)																						
機能配置:1階=調理作業エリア、調理従事者エリア、職員事務室																						
2階=調理作業エリア																						
3階=見学用通路、研修室、調理実習室																						
②給食センターの概算事業費																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">イニシャルコスト</th> <th colspan="2">ランニングコスト</th> <th>総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">センター</td> <td>37.5億円</td> <td>本体</td> <td>31.9億円</td> <td>15年間</td> <td>42.4億円</td> <td rowspan="2">79.9億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>配膳室</td> <td>5.6億円</td> <td>1年当たり</td> <td>2.8億円</td> </tr> </tbody> </table>						イニシャルコスト		ランニングコスト		総額	センター	37.5億円	本体	31.9億円	15年間	42.4億円	79.9億円		配膳室	5.6億円	1年当たり	2.8億円
		イニシャルコスト		ランニングコスト		総額																
センター	37.5億円	本体	31.9億円	15年間	42.4億円	79.9億円																
		配膳室	5.6億円	1年当たり	2.8億円																	
* 配膳室費用にはエレベーター設置費用を含む																						
③配送計画																						
・ 調理後2時間以内の喫食が可能																						
・ 最も遅い学校でも、調理完了から67分後には配送トラックが到着																						

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	29年度の事業の達成状況 ミルク給食を実施し、日常的に不足しがちなカルシウムを補填し、身体的健康の増進につなげた。 川西市中学校給食推進基本方針に基づき、中学校7校の完全給食実施に向けて、センター方式実現可能性調査を実施した。
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
課題と改善について センター方式実施可能性調査の結果により判明した課題を整理し、完全給食の早期実現及び全校一斉実施に向けて検証する必要がある。	30年度以降における具体的な方向性について 引き続き、ミルク給食を実施し、日常的に不足しがちなカルシウムを補填し、身体的健康の増進につなげる。 センター方式実現可能性調査の結果を受け、PFI導入可能性調査を実施し、早期に全校一斉に完全給食が実施できるよう検討する。						
<small>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</small>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生徒健康管理事業			決算書頁	324
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	37 児童・生徒の健康を守ります				
所管部・課	教育推進部	学校教育課	作成者	課長 西門 隆博	

2. 事業の目的

市立中学校の生徒の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較	
総事業費	15,852	15,355	497	一般財源	14,210	13,670	540	
内 訳	事業費	15,852	15,355	497	国県支出金			
	職員人件費				地方債			
	公債費				特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)			特定財源(その他)	1,642	1,685	△43	
	再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	生徒健康管理事業	細事業事業費(千円)	15,852												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携														
(2) 29年度の取組と成果	<p>学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、児童の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期健診 内科、眼科、耳鼻科、歯科検診を実施した。(5月～6月) ・ 検査 尿検査の実施。(6月) ・ 事故対策 日本スポーツ振興センターの災害共済に加入。 <p>・ 定期健康診断の検診項目</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">①身長、体重</td> <td style="width: 50%;">②栄養状態</td> </tr> <tr> <td>③脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無</td> <td>④四肢の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑤視力及び聴力</td> <td>⑥眼の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑦耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無</td> <td>⑧歯及び口腔の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑨結核の有無</td> <td>⑩心臓の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑪尿腎臓疾患の有無</td> <td>⑫その他の疾病及び異常の有無</td> </tr> </table>			①身長、体重	②栄養状態	③脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無	④四肢の疾病及び異常の有無	⑤視力及び聴力	⑥眼の疾病及び異常の有無	⑦耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無	⑧歯及び口腔の疾病及び異常の有無	⑨結核の有無	⑩心臓の疾病及び異常の有無	⑪尿腎臓疾患の有無	⑫その他の疾病及び異常の有無
①身長、体重	②栄養状態														
③脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無	④四肢の疾病及び異常の有無														
⑤視力及び聴力	⑥眼の疾病及び異常の有無														
⑦耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無	⑧歯及び口腔の疾病及び異常の有無														
⑨結核の有無	⑩心臓の疾病及び異常の有無														
⑪尿腎臓疾患の有無	⑫その他の疾病及び異常の有無														

- ・各校において、学校保健の問題に対し、学校医からの助言や学校保健委員会を通じての啓発などを行った。
- ・学習指導要領に基づく保健学習と健康実態に応じた保健指導を中心に保健教育を進めている。
- ・発達段階に応じた保健教育を実施し生涯にわたって主体的に健康づくりができるよう指導を進めた。
- ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育及び性教育に関しては学習指導要領に則り、生徒の発達段階に沿った内容で実施した。

項目	学年	受診者数(名)	有所見者数(名)	有所見者率(%)
内科検診	全体	4,414	2,609	59.1%
	1学年	1,334	825	61.8%
	2学年	1,332	812	61.0%
	3学年	1,748	972	55.6%
尿検査	全体	4,414	79	1.8%
	1学年	1,334	23	1.7%
	2学年	1,332	29	2.2%
	3学年	1,748	27	1.5%
眼科検診	1年のみ	1,334	70	5.2%
耳鼻科検診	1年のみ	1,334	199	14.9%
歯科検診 未処置 CO数	全体	4,414	1,051	23.8%
	1学年	1,334	389	29.2%
	2学年	1,332	322	24.2%
	3学年	1,748	340	19.5%

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>健康診断の内容が一部変更されたことに伴い、新たな健康診断をスムーズに実施できるよう医師会との連携を密に行った。29年度の健康診断も、学校保健安全法に則り、実施することができた。</p> <p>また、養護教諭が生徒の心のケアや怪我や病気の対処法等について研究協議を行い学校保健の充実にも取り組むことができた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>保護者に事業の目的及び結果を伝えるとともに、生徒自身が健康を守り、生活を改善をしていくなど自己の体調や健康を管理する力を育成していく。</p> <p>また、健康診断の結果を分析し、健康状態やその傾向について、教職員全員が共通理解を図ることで、健康安全教育について推進していく。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>学校医・学校歯科医・学校薬剤師との協力体制を推進するとともに、健康診断結果をもとに、保護者と連携しながら生徒の健康の増進をさらに図っていく。</p> <p>生徒の自己管理能力の育成のため、この事業の目的及び結果をより理解させ意識させるために充実した健康教育に取り組む。</p>						

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校給食運営事業			決算書頁	332
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	37 児童・生徒の健康を守ります				
所管部・課	教育推進部	学務課	作成者	課長 志波 仁史	

2. 事業の目的

栄養バランスのとれた豊かな食事を提供し、身体的健康の増進、正しい食習慣の形成を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較	
総事業費	14,346	14,669	△ 323	一般財源	13,481	14,015	△ 534	
内 訳	事業費	1,290	1,659	△ 369	国県支出金			
	職員人件費	13,056	13,010	46	地方債			
	公債費				特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)	1	1	特定財源(その他)	865	654	211	
	再任用職員数(人)	1	1					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	特別支援学校給食運営事業	細事業事業費(千円)	1,290												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)															
(2) 29年度の取組と成果	<p>●安全・安心でおいしい給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自校調理において、栄養バランスのとれた給食を年間180回実施した。 <p>完全給食実施食数(川西養護学校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食実施食数</td> <td>12,391食</td> <td>12,192食</td> <td>12,255食</td> <td>11,984食</td> <td>10,893食</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・週5日の完全米飯給食に合わせ、手づくりにこだわった和食中心の献立を提供した。(正しい食習慣の形成) ・「川西市立学校園アレルギー対応運用マニュアル」等に基づく適切な対応を図った。(手堅い手順の確立) ・すべての食材の生産地をホームページで公表した。(情報公開の徹底) ・安全に給食を実施するために、必要な修繕や設備の保守点検、厨房機器の更新等を実施した。 			年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	給食実施食数	12,391食	12,192食	12,255食	11,984食	10,893食
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度										
給食実施食数	12,391食	12,192食	12,255食	11,984食	10,893食										
主な施設設備整備	<table border="1"> <tr> <td>手洗い設備増設</td> </tr> <tr> <td>回転釜更新(2台)</td> </tr> </table>			手洗い設備増設	回転釜更新(2台)										
手洗い設備増設															
回転釜更新(2台)															
	 <p>手洗い設備</p>														

- ・衛生管理、危機管理、食育等の研修会に参加し、職員の意識・知識の向上を図った。
- ・「川西市学校給食安全管理指針」の活用や研修会の実施を通じて、安全衛生管理を徹底した。
- ・きざみ食調理など、児童生徒の状況に応じた給食を提供した。



きざみ食



ペースト食

●食育の推進

- ・旬の食材を中心に、日本の食文化を知ることができる献立を提供した。（年20数回に及ぶ献立検討会の実施）
- ・栄養教諭や調理師が喫食状況を把握し、献立や調理方法を改善した。（年11回に及ぶ調理説明会の実施）
- ・子どもたちが自ら”食”を選択する力を、教育の一環として育成した。

●地産地消の推進

- ・可能な限り県内産、市内産食材を確保し、地域食材を活用した。
- ・JA兵庫六甲と連携し、市の特産物や地元の食材を使用した。

●家庭や地域との連携・交流の促進

- ・保護者試食会や「給食だより」などを通じ、家庭との連携を図った。（学校給食の情報の発信）

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>週5回の完全米飯給食を実施し、栄養バランスのとれた豊かな食事を提供し、身体的健康の増進、正しい食習慣の形成につなげた。また、きざみ食調理をするなど、児童生徒の状況に応じた対応をした。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>安全・安心の学校給食実施のために、衛生面・安全面でのリスクを回避するため、老朽化した施設・設備の修繕または更新が必要である。優先順位を見極め、状況に応じた対応を検討する必要がある。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>安全・安心の学校給食を安定的に進めるため、より一層の安全確保に向け、「川西市立学校園アレルギー対応運用マニュアル」等の徹底を図るほか、経年劣化に伴う施設及び機器の改善を行い、文部科学省「学校給食衛生管理基準」に適合した環境への改善・整備を進める。</p> <p>また、引き続き、地産地消の取り組みを進め、自校調理方式で完全米飯給食を実施する。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	児童・生徒健康管理事業		決算書頁	334
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	37 児童・生徒の健康を守ります			
所管部・課	教育推進部	学校教育課	作成者	課長 西門 隆博

2. 事業の目的

特別支援学校児童生徒の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	1,031	955	76	一般財源	1,021	937	84
内 事業費	1,031	955	76	国県支出金			
内 職員人件費				地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)				特定財源(その他)	10	18	△8
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	児童・生徒健康管理事業	細事業事業費(千円)	1,031												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携														
(2) 29年度の取組と成果	学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、児童生徒の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努めた。														
・ 定期健診	内科、眼科、耳鼻科、歯科検診を実施した。(5月～6月)														
・ 検査	尿検査の実施。(6月)														
・ 事故対策	日本スポーツ振興センターの災害共済に加入。														
・ 定期健康診断の検診項目	<table border="0"> <tr> <td>①身長、体重</td> <td>②栄養状態</td> </tr> <tr> <td>③脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無</td> <td>④四肢の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑤視力及び聴力</td> <td>⑥眼の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑦耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無</td> <td>⑧歯及び口腔の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑨結核の有無</td> <td>⑩心臓の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>⑪尿腎臓疾患の有無</td> <td>⑫その他の疾病及び異常の有無</td> </tr> </table>			①身長、体重	②栄養状態	③脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無	④四肢の疾病及び異常の有無	⑤視力及び聴力	⑥眼の疾病及び異常の有無	⑦耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無	⑧歯及び口腔の疾病及び異常の有無	⑨結核の有無	⑩心臓の疾病及び異常の有無	⑪尿腎臓疾患の有無	⑫その他の疾病及び異常の有無
①身長、体重	②栄養状態														
③脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無	④四肢の疾病及び異常の有無														
⑤視力及び聴力	⑥眼の疾病及び異常の有無														
⑦耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無	⑧歯及び口腔の疾病及び異常の有無														
⑨結核の有無	⑩心臓の疾病及び異常の有無														
⑪尿腎臓疾患の有無	⑫その他の疾病及び異常の有無														

事業の成果

- ・川西市歯科医師会、川西市医師会、学校担当医、養護教諭、歯科記録員等と連携を取り合い、計画通り進めることができた。
- ・健康診断の結果をもとに事後措置を行うと共に、保健指導・健康相談を行い、保健管理の徹底を図った。
- ・学校医からの助言や学校保健委員会を通じての啓発などが行われた。
- ・保護者と連携し、検診結果をもとに児童生徒の主治医とも連携し保健指導を行った。
- ・学習指導要領に基づく保健学習と健康実態に応じた保健指導を中心に保健教育を進めている。
- ・個々の障がいの特性や発達段階に応じた保健教育を実施し、生涯にわたって主体的に健康づくりができるよう指導を進めた。
- ・健康診断とは別に、定期健康診断のデータを参考にし、整形外科の診察を受け、リハビリ等を行っている。

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>児童生徒の健康診断の内容が一部変更されたことに伴い、新たな健康診断をスムーズに実施できるよう医師会との連携を密に行った。29年度の健康診断も、学校保健安全法に則り、実施することができた。</p> <p>また、養護教諭が児童生徒の心のケアや怪我や病気の対処法等について研究協議を行い学校保健の充実にも取り組むことができた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>個々の実態や障がいの特性に応じて、今後も継続して取り組んでいく。教職員が、健康診断の結果を分析し、教職員で共通理解を図りながら、健康で安全な教育活動の充実に努めること。</p> <p>また健康診断結果を、児童生徒・保護者に伝え、健康についての関心を高めるよう促す。</p> <p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>定期健康診断や市立川西病院（学校医）での診察の結果及び児童・生徒の健康状態などを教職員で情報共有しながら、それらを日常生活の動作に反映させるとともに、児童生徒がQOL（生活の質）を高め、可能な限り自己管理の力を育成していくことをめざしたい。</p>						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校運営事業			決算書頁	312
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平	

2. 事業の目的

小学校の児童に良好で適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	383,353	384,846	△ 1,493	一般財源	372,061	384,123	△ 12,062
内 事業費	262,372	247,592	14,780	国県支出金			
内 職員人件費	17,212	17,542	△ 330	地方債	8,236		8,236
内 公債費	103,769	119,712	△ 15,943	特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	2	2		特定財源(その他)	3,056	723	2,333
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校運営事業	細事業事業費(千円)	262,372
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等への委託		
(2) 29年度の取組と成果	<p>①市立小学校16校の運営・安全管理や施設設備の維持管理を行った。</p> <p>②光熱水費の削減を目的として、昨年度に引き続き、入札による新電力会社と電力供給契約を締結した。</p> <p>③環境への負荷を軽減すべく、ごみの分別収集の徹底を図りながら校内環境の衛生管理を行った。</p>		
			
	排水管清掃	樹木害虫駆除	

児童数、学級数の推移

※各年度5月1日現在

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
児童数	8,658	8,407	8,326	8,157	8,069
学級数	330	320	314	314	321

事業費の推移

(単位:千円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	287,674	280,368	284,519	247,592	262,372

事業費の内訳

(単位:千円)

費目	金額	備考
消耗品費	48,607	管理用・教材用
光熱水費	131,935	電気・ガス・水道
設備保守管理委託料	12,316	空調設備保守・自動扉開閉装置保守・消防設備保守等
業務委託料	29,786	夜間、休日警備・ゴミ収集運搬、処分・校庭樹木整備等
使用料及び賃借料	22,005	乾式複写機使用料等
その他	17,723	通信運搬費、コピー代等

光熱水費の推移

(単位:千円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
電気・ガス・水道	153,034	147,951	147,304	121,427	131,935

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価

市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。	
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○

29年度の事業の達成状況

水道使用量等の管理の徹底により、経費の削減に努め予算の効果的・計画的な執行を図った。空調設備の全校設置に伴い光熱費の増加が見込まれることから、快適な環境の提供と地球環境に十分配慮した適正な空調使用を目的に空調設備運用指針を策定し学校に周知した。また、子どもたちの健康面への配慮を行うため、実態に即した空調使用の把握に向けて、「学校空調利用状況調べ」を実施した。

課題と改善について

9月以降の空調設備の稼働により、冬季の光熱費が増加傾向にある。各校の状況に応じた使用方法を把握し、ストーブと使い分けを行う等、効果的な使用に向けた適切な空調管理により良好な教育環境の整備に配慮する必要がある。

30年度以降における具体的な方向性について

光熱費等の削減に努めるとともに、引き続き学校の安全管理及び施設維持管理を行い、良好で適切な教育環境づくりに努める。

電気・ガス使用量が増加傾向にあるため、使用状況等を注視しながら、空調設備運用指針を適宜見直し、実態に即した効果的なものにする。

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校備品整備事業			決算書頁	312
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平	

2. 事業の目的

小学校における教材備品・管理備品の適正な整備を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較	
総事業費	10,654	10,195	459	一般財源	10,354	9,895	459	
内訳	事業費	10,654	10,195	459	国県支出金	300	300	
	職員人件費				地方債			
	公債費				特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)			特定財源(その他)				
	再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校備品整備事業	細事業事業費(千円)	10,654																												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																															
(2) 29年度の取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した学校備品を適正に更新するとともに、新たな教育課題に対応する教材備品や、学校運営上必要な管理備品を購入した。 <p>学校備品購入のスケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成28年9月</th> <th>10月</th> <th>平成29年1月~4月</th> <th>5月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各学校へH29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼</td> <td>計画書の提出締切</td> <td>計画書の確認</td> <td>必要に応じて学校へ質問・訂正依頼</td> </tr> <tr> <th>6月</th> <th>7月</th> <th colspan="2">~8月</th> </tr> <tr> <td>業者へ見積依頼</td> <td>備品発注</td> <td colspan="2">2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 観察、実験等の教育設備の充実に必要な備品の整備を行った。 <p>理科備品購入のスケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成29年3月</th> <th>5月</th> <th>7月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度理科教育設備整備費等補助金実施計画書提出</td> <td>交付申請</td> <td>補助金の交付決定、学校へ通知 学校から理科備品購入計画書の提出</td> </tr> <tr> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>~10月</th> </tr> <tr> <td>購入計画書完成 業者へ見積依頼</td> <td>備品発注</td> <td>学校へ随時納品</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 学校備品の適正管理を行うため、教育委員会事務局職員が学校に出向き、管理状況等の確認を実施した。 <p>(実施日時) 平成29年11月28日 (対象) 久代小学校 平成29年12月1日 明峰小学校</p>			平成28年9月	10月	平成29年1月~4月	5月	各学校へH29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼	計画書の提出締切	計画書の確認	必要に応じて学校へ質問・訂正依頼	6月	7月	~8月		業者へ見積依頼	備品発注	2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了		平成29年3月	5月	7月	平成29年度理科教育設備整備費等補助金実施計画書提出	交付申請	補助金の交付決定、学校へ通知 学校から理科備品購入計画書の提出	8月	9月	~10月	購入計画書完成 業者へ見積依頼	備品発注	学校へ随時納品
平成28年9月	10月	平成29年1月~4月	5月																												
各学校へH29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼	計画書の提出締切	計画書の確認	必要に応じて学校へ質問・訂正依頼																												
6月	7月	~8月																													
業者へ見積依頼	備品発注	2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了																													
平成29年3月	5月	7月																													
平成29年度理科教育設備整備費等補助金実施計画書提出	交付申請	補助金の交付決定、学校へ通知 学校から理科備品購入計画書の提出																													
8月	9月	~10月																													
購入計画書完成 業者へ見積依頼	備品発注	学校へ随時納品																													

備品購入費の推移 (単位:千円)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
11,884	8,292	9,874	10,176	9,430

備品購入数の推移

○教材備品 (単位:個)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
235	146	152	172	169

○管理備品 (単位:個)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
88	80	74	90	69

平成29年度に購入した主な備品

(教材備品)

時刻・時間計算教具
大判日本歴史図集、オルガン 等

(管理備品)

展示板増設セット、薬品戸棚 等



オルガン



薬品戸棚

上記の備品購入費・教材備品の内、

理科備品 (単位:千円)

学校名	購入数	購入金額
緑台	22	328
牧の台	9	315
合計	31	643

(理科備品)

熱伝導比較装置、人体骨格模型
デジタル気体チェッカー 等



デジタル気体チェッカー

・理科教育設備整備費等補助金により備品を購入した。

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>学校の老朽化した備品を計画的に更新し、備品の適正管理に努めた。</p> <p>理科教育設備整備費等補助金を活用して理科教育備品を購入し、理科教育設備の充実を図った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>電話設備が老朽化しており通話に支障が出ている学校がある。1台ごとの入替が不可で、一斉入替機種のため、計画的な更新を図る必要がある。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>文部科学省が策定した「教材整備指針」に基づき、教材の計画的な整備に努める。</p> <p>また、備品台帳を利用することによって、電話機器等、更新時期を把握し、年次的に購入計画を作成していく。</p> <p>理科教育設備整備費等補助金を活用し、理科設備備品の現有率が低い学校を優先的に補助対象校として、理科備品の購入、充足に努める。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校図書整備事業			決算書頁	314
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平	

2. 事業の目的

児童の健全な教養を育成するとともに学校の教育課程の展開に寄与する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	9,756	9,726	30	一般財源	9,756	9,726	30
内 事業費	9,756	9,726	30	国県支出金			
内 職員人件費				地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)				特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校図書整備事業	細事業事業費(千円)	9,756		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)					
(2) 29年度の取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 児童の読書活動の推進や言語力を育むため、学校図書館の充実が必要であるとの考えに基づき、引き続き蔵書の整備を行った。 年度末に実施する「学校図書館蔵書数調査」を実施した。 蔵書数の増加に対応するため、希望する学校に対し、書架の整備を実施した。 				
図書購入費の推移	(単位:千円)				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	4,795	4,467	4,432	9,148	9,409
蔵書数の推移	(単位:冊)				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	143,105	146,397	147,638	163,094	176,145
書架の整備状況	(単位:校・千円)				
	28年度	29年度			
学校数	5	3			
決算額	578	348			

各学校の蔵書数

(単位:人・冊)

学校名	児童数	蔵書数	学校図書館図書標準	蔵書率
	H29.5.1	H30.2.28	H29.5.1	H30.2.28
久代	484	9,591	10,560	90.8%
加茂	465	9,234	10,360	89.1%
川西	605	10,671	11,560	92.3%
桜が丘	305	8,340	8,760	95.2%
川西北	399	8,820	9,960	88.6%
明峰	893	31,839	13,000	244.9%
多田	530	10,896	10,960	99.4%
多田東	678	11,325	11,760	96.3%
緑台	309	9,420	8,760	107.5%
陽明	295	8,788	8,360	105.1%
清和台	309	8,391	8,760	95.8%
清和台南	365	9,013	9,160	98.4%
けやき坂	619	9,631	11,360	84.8%
東谷	761	11,974	12,760	93.8%
牧の台	513	9,217	10,760	85.7%
北陵	539	8,995	11,160	80.6%
合計	8,069	176,145	168,000	103.0%

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>学校図書館図書標準の達成率の向上をめざし、図書の購入を進めるとともに、配架に必要な書架の整備を併せて行うことにより、学校図書館の環境整備を図った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>図書標準の達成率が高い学校ほど予算の配分が抑制されるため、新刊図書の不足が深刻となる。このため達成率偏重の予算配分を見直す必要がある。また、達成率向上を抑止する一要因として、図書スペースの不足や書架不足が考えられる。引き続き書架の整備等に向けた取り組みに努める。</p> <p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>児童の“学びの環境”を充実するために、学校図書の整備を引き続き推進し、学校図書館の充実による児童の学力向上に努める。</p> <p>整備計画については、平成30年度より新しく5カ年計画を策定し、達成率の向上をめざす。また、前年度に引き続き、配架に必要な書架の整備を進め、魅力ある学校図書館の環境整備に努める。</p>						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校運営事業		決算書頁	320
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平

2. 事業の目的

中学校の生徒に良好で適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	224,461	236,691	△ 12,230	一般財源	222,488	236,193	△ 13,705
内 事業費	99,732	95,285	4,447	国県支出金			
内 職員人件費	8,606	8,771	△ 165	地方債			
内 公債費	116,123	132,635	△ 16,512	特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	1	1		特定財源(その他)	1,973	498	1,475
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校運営事業	細事業事業費(千円)	99,732
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) 29年度の取組と成果	<p>①市立中学校7校の運営・安全管理や施設設備の維持管理を行った。</p> <p>②光熱水費の削減を目的として、昨年度に引き続き、入札による新電力会社と電力供給契約を締結した。</p> <p>③環境への負荷を軽減すべく、ごみの分別収集の徹底を図りながら校内環境の衛生管理を行った。</p>		
			
	樹木剪定	プール循環装置保守点検	

生徒数、学級数の推移

※各年度5月1日現在

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
生徒数	4,337	4,394	4,380	4,251	4,121
学級数	135	136	136	132	131

事業費の推移

(単位:千円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	117,845	110,195	103,818	95,285	99,732

事業費の内訳

(単位:千円)

費目	金額	備考
消耗品費	28,742	管理用・教材用
光熱水費	47,263	電気・ガス・水道
設備保守管理委託料	3,786	空調設備保守・自動扉開閉装置保守・消防設備保守等
業務委託料	11,466	夜間、休日警備・ゴミ収集運搬、処分・校庭樹木整備等
使用料及び賃借料	1,661	乾式複写機使用料等
備品購入費	126	学校配備AED(更新)
その他	6,688	通信運搬費、コピー代等

光熱水費の推移

(単位:千円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
電気・ガス・水道	64,339	58,003	53,527	44,013	47,263

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価

市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。	
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○

29年度の事業の達成状況

水道使用量等の管理の徹底により、経費の削減に努め予算の効果的・計画的な執行を図った。空調設備の全校設置に伴い光熱費の増加が見込まれることから、快適な環境の提供と地球環境に十分配慮した適正な空調使用を目的に空調設備運用指針を策定し学校に周知した。また、子どもたちの健康面への配慮を行うため、実態に即した空調使用の把握に向けて、「学校空調利用状況調べ」を実施した。

課題と改善について

9月以降の空調設備の稼働により、冬季の光熱費が増加傾向にある。各校の状況に応じた使用方法を把握し、ストーブと使い分けを行う等、効果的な使用に向けた適切な空調管理により良好な教育環境の整備に配慮する必要がある。

30年度以降における具体的な方向性について

光熱費等の削減に努めるとともに、引き続き学校の安全管理及び施設維持管理を行い、良好で適切な教育環境づくりに努める。

電気・ガス使用量が増加傾向にあるため、使用状況等を注視しながら、空調設備運用指針を適宜見直し、実態に即した効果的なものにする。

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校備品整備事業			決算書頁	320
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平	

2. 事業の目的

中学校における教材備品・管理備品の適正な整備を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	7,218	6,551	667	一般財源	6,918	6,251	667
内 事業費	7,218	6,551	667	国県支出金	300	300	
内 職員人件費				地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)				特定財源(その他)			
参考 専任職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校備品整備事業	細事業事業費(千円)	7,218																												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																															
(2) 29年度の取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した学校備品を適正に更新するとともに、新たな教育課題に対応する教材備品や、学校運営上必要な管理備品を購入した。 <p>学校備品購入のスケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成28年9月</th> <th>10月</th> <th>平成29年1月~4月</th> <th>5月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各学校へH29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼</td> <td>計画書の提出締切</td> <td>計画書の確認</td> <td>必要に応じて学校へ質問・訂正依頼</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>7月</td> <td colspan="2">~8月</td> </tr> <tr> <td>業者へ見積依頼</td> <td>備品発注</td> <td colspan="2">2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 観察、実験等の教育設備の充実に必要な備品の整備を行った。 <p>理科備品購入のスケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成29年3月</th> <th>5月</th> <th>7月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度理科教育設備整備費等補助金実施計画書提出</td> <td>交付申請</td> <td>補助金の交付決定、学校へ通知 学校から理科備品購入計画書の提出</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>~10月</td> </tr> <tr> <td>購入計画書完成 業者へ見積依頼</td> <td>備品発注</td> <td>学校へ随時納品</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 学校備品の適正管理を行うため、教育委員会事務局職員が学校に出向き、管理状況等の確認を実施した。 (実施日時) 平成29年11月27日 (対象) 東谷中学校 			平成28年9月	10月	平成29年1月~4月	5月	各学校へH29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼	計画書の提出締切	計画書の確認	必要に応じて学校へ質問・訂正依頼	6月	7月	~8月		業者へ見積依頼	備品発注	2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了		平成29年3月	5月	7月	平成29年度理科教育設備整備費等補助金実施計画書提出	交付申請	補助金の交付決定、学校へ通知 学校から理科備品購入計画書の提出	8月	9月	~10月	購入計画書完成 業者へ見積依頼	備品発注	学校へ随時納品
平成28年9月	10月	平成29年1月~4月	5月																												
各学校へH29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼	計画書の提出締切	計画書の確認	必要に応じて学校へ質問・訂正依頼																												
6月	7月	~8月																													
業者へ見積依頼	備品発注	2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了																													
平成29年3月	5月	7月																													
平成29年度理科教育設備整備費等補助金実施計画書提出	交付申請	補助金の交付決定、学校へ通知 学校から理科備品購入計画書の提出																													
8月	9月	~10月																													
購入計画書完成 業者へ見積依頼	備品発注	学校へ随時納品																													

備品購入費の推移 (単位:千円)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
8,615	7,227	6,529	6,512	7,218

備品購入数の推移

○教材備品 (単位:個)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
151	74	104	96	91

○管理備品 (単位:個)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
42	71	52	74	65

平成29年度に購入した主な備品

(教材備品)

クラリネット、地球儀

ティンパニー 等

(管理備品)

プロジェクター、デジタル体重計 等



ティンパニー

上記の備品購入費・教材備品の内、

理科備品 (単位:千円)

学校名	購入数	購入金額
川西南中	15	615
合計	15	615

・理科教育設備整備費等補助金により備品を購入した。

(理科備品)

顕微鏡



顕微鏡



プロジェクター

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>学校の老朽化した備品を計画的に更新し、備品の適正管理に努めた。</p> <p>理科教育設備整備費等補助金を活用して理科教育備品を購入し、理科教育設備の充実を図った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>電話設備が老朽化しており通話に支障が出ている学校がある。1台ごとの入替が不可で、一斉入替機種のため、計画的な更新を図る必要がある。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>文部科学省が策定した「教材整備指針」に基づき、教材の計画的な整備に努める。</p> <p>また、備品台帳を利用することによって、電話機器等、更新時期を把握し、年次的に購入計画を作成していく。</p> <p>理科教育設備整備費等補助金を活用し、理科設備備品の現有率が低い学校を優先的に補助対象校として、理科備品の購入、充足に努める。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校図書整備事業			決算書頁	320
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平	

2. 事業の目的

生徒の健全な教養を育成するとともに学校の教育課程の展開に寄与する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	5,850	5,768	82	一般財源	5,850	5,768	82
内 事業費	5,850	5,768	82	国県支出金			
内 職員人件費				地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)				特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校図書整備事業	細事業事業費(千円)	5,850		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)					
(2) 29年度の取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の読書活動の推進や言語力を育むため、学校図書館の充実が必要であるとの考えに基づき、引き続き蔵書の整備を行った。 年度末に実施する「学校図書館蔵書数調査」を実施した。 蔵書数の増加に対応するため、希望する学校に対し書架の整備を実施した。 				
図書購入費の推移	(単位:千円)				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	3,790	3,657	3,659	5,253	5,321
蔵書数の推移	(単位:冊)				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	81,741	83,322	86,661	89,809	92,854
書架の整備状況	(単位:校・千円)				
	28年度	29年度			
学校数	4	5			
決算額	516	530			

各学校の蔵書数

(単位:人・冊)

学校名	生徒数	蔵書数	学校図書館図書標準	蔵書率
	H29.5.1	H30.2.28	H29.5.1	H30.2.28
川西南	517	14,268	13,120	108.8%
川西	604	12,164	14,240	85.4%
明峰	517	11,611	12,640	91.9%
多田	660	14,167	14,240	99.5%
緑台	328	11,663	10,720	108.8%
清和台	566	14,130	13,920	101.5%
東谷	929	14,851	16,480	90.1%
合計	4,121	92,854	95,360	98.0%

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>学校図書館図書標準の達成率の向上をめざし、図書の購入を進めるとともに、配架に必要な書架の整備を併せて行うことにより、学校図書館の環境整備を図った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>図書標準の達成率が高い学校ほど予算の配分が抑制されるため、新刊図書の不足が深刻となる。このため達成率偏重の予算配分を見直す必要がある。また、達成率向上を抑止する一要因として、図書スペースの不足や書架不足が考えられる。引き続き書架の整備等に向けた取り組みに努める。</p> <p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>生徒の“学びの環境”を充実するために、学校図書の整備を引き続き推進し、学校図書館の充実による生徒の学力向上に努める。</p> <p>整備計画については、平成30年度より新しく5カ年計画を策定し、達成率の向上をめざす。また、前年度に引き続き、配架に必要な書架の整備を進め、魅力ある学校図書館の環境整備に努める。</p>						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校運営事業		決算書頁	330
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平

2. 事業の目的

特別支援学校の児童・生徒に良好で適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	22,626	29,895	△ 7,269	一般財源	15,553	24,622	△ 9,069
内				国県支出金			0
事業費	11,602	11,619	△ 17	地方債			0
職員人件費	8,606	8,771	△ 165	特定財源(都市計画税)			0
公債費	2,418	9,505	△ 7,087	特定財源(その他)	7,073	5,273	1,800
参考							
職員数(人)	1	1	0				
再任用職員数(人)	0	0	0				

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	特別支援学校運営事業	細事業事業費(千円)	11,602
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) 29年度の取組と成果	<p>①川西養護学校の児童・生徒に適切な教育環境を提供できるよう、学校運営・安全管理や施設設備の維持管理を行った。</p> <p>②光熱水費の削減を目的として、昨年度に引き続き、入札による新電力会社と電力供給契約を締結した。</p> <p>③環境への負荷を軽減すべく、ごみの分別収集の徹底を図りながら校内環境の衛生管理を行った。</p>		
			
	消防設備保守点検	校務員室の害虫駆除	

児童・生徒数、学級数の推移 ※各年度5月1日現在

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
児童・生徒数	26	26	27	24	21
学級数	11	10	10	10	8

事業費の推移 (単位:千円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	12,898	12,596	12,729	11,619	11,602

事業費の内訳 (単位:千円)

費目	金額	備考
消耗品費	2,084	管理用・教材用
光熱水費	5,724	電気・ガス・水道
設備保守管理委託料	1,910	空調設備保守・自動扉開閉装置保守・消防設備保守等
業務委託料	942	夜間、休日警備・ゴミ収集運搬、処分・樹木害虫駆除等
使用料及び賃借料	113	乾式複写機使用料等
その他	829	通信運搬費、コピー代等

光熱水費の推移 (単位:千円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
電気・ガス・水道	7,115	7,475	6,746	5,667	5,724

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>水道使用量等の管理の徹底により、経費の削減に努め予算の効果的・計画的な執行を図った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>効果的な使用に向けた適切な空調管理により良好な教育環境の整備に配慮する必要がある。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>光熱水費等の削減に努めるとともに、引き続き学校の安全管理及び施設維持管理を行い、良好で適切な教育環境づくりを目指す。</p> <p>電気・ガスの使用状況等を注視しながら、空調設備運用指針を適宜見直し、実態に即した効果的なものにする。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校備品整備事業		決算書頁	330
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育総務課	作成者	課長 武富 祥平

2. 事業の目的

特別支援学校における教材備品・管理備品の適正な整備を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	222	376	△ 154	一般財源	222	376	△ 154
内 事業費	222	376	△ 154	国県支出金			
内 職員人件費				地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)				特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	特別支援学校備品整備事業	細事業事業費(千円)	222														
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																	
(2) 29年度の取組と成果	<p>・老朽化した学校備品を適正に更新するとともに、新たな教育課題に対応する教材備品や、学校運営上必要な管理備品を購入した。</p> <p>学校備品購入のスケジュール</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成28年9月</th> <th>10月</th> <th>平成29年1月~4月</th> </tr> <tr> <td>H29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼</td> <td>計画書の提出締切</td> <td>計画書の確認</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>5月</th> <th>6月</th> </tr> <tr> <td>必要に応じて質問・訂正依頼</td> <td>業者へ見積依頼</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>7月</th> <th>~8月</th> </tr> <tr> <td>備品発注</td> <td>2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了</td> </tr> </table>			平成28年9月	10月	平成29年1月~4月	H29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼	計画書の提出締切	計画書の確認	5月	6月	必要に応じて質問・訂正依頼	業者へ見積依頼	7月	~8月	備品発注	2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了
平成28年9月	10月	平成29年1月~4月															
H29年度備品購入計画書・理由書の提出依頼	計画書の提出締切	計画書の確認															
5月	6月																
必要に応じて質問・訂正依頼	業者へ見積依頼																
7月	~8月																
備品発注	2学期に使用できるよう、夏季休業中に納品完了																

備品購入費の推移 (単位:千円)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
357	577	316	376	223

備品購入数の推移

○ 教材備品 (単位:個)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
5	4	4	1	0

○ 管理備品 (単位:個)

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
5	5	7	7	5

平成29年度に購入した主な備品

(管理備品)

アコーディオン衝立、ビデオカメラ



ビデオカメラ

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価

市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。	
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○

29年度の事業の達成状況

学校の老朽化した備品を計画的に更新し、備品の適正管理に努めた。

課題と改善について

通常校に比べ、受入れる児童・生徒に応じた特殊備品が必要となるが、特殊備品は金額が高く整備が進まない。誰もが等しく学べる環境整備に向けて、今後も適正な整備を図っていく。

30年度以降における具体的な方向性について

文部科学省が策定した「教材整備指針」に基づき、児童・生徒の特性に応じた備品を購入し、誰もが等しく学べるよう教育環境の整備に努める。

備品の適正管理のため、備品台帳の整備に努める。

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校施設維持管理事業			決算書頁	336
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	都市政策部	公共施設マネジメント課	作成者	主幹 小林 尚司	

2. 事業の目的

児童の安全を確保し、良好な教育環境を維持する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較	
総事業費	110,437	76,930	33,507	一般財源	101,437	76,930	24,507	
内訳	事業費	93,225	68,159	25,066	国県支出金			
	職員人件費	17,212	8,771	8,441	地方債	9,000		9,000
	公債費				特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)	2	1	1	特定財源(その他)			
	再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	93,225
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) 29年度の取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校16校の施設・設備の維持管理のため、校舎修繕、器具修繕を実施した。 ・洋式便器化、小便器洗浄弁センサー化、床材の張り替えなどを、学校と調整しながら実施した。 ・消防設備・プールろ過循環装置など保守点検で判明した不良箇所等の修繕を実施した。 ・校庭の水はけ等の改良を行うため運動場整備を実施した。 ・台風による施設の損傷箇所の復旧修繕を実施した。 ・一時的な児童数増加に対応するために、仮設校舎を賃借した。 ・成果としては、雨漏りなどの突発的な案件の対応に苦慮したが、計画的・効果的に事業を進め、学校活動の環境を維持した。 		
グラウンド修繕 (北陵小学校)		プール配管修繕 (緑台小学校)	
↓ 修繕後		↑ 修繕中	↑ 修繕前
	<p>修繕概要 グラウンド鋤取り、真砂土を搬入して不陸修正及び老朽化した側溝取替え</p>	<p>修繕概要 老朽し、破損した配管の修繕</p>	



手洗い場修繕
(陽明小学校)

↓ 修繕後



↑ 修繕前
修繕概要
老朽した手洗い場配管と水栓の取替え

体育館床修繕
(多田東小学校)

↓ 修繕後



↑ 修繕前
修繕概要
老朽化した床の修繕及びライン引き

消火水槽配管修繕
(清和台小学校)

↓ 修繕後



↑ 修繕中
修繕概要
老朽した消火水槽配管の取替え

仮設校舎賃借
(けやき坂小学校)

↓ 外観



↓ 内部



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

<p>自己評価</p> <table border="1" data-bbox="220 1406 683 1659"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>雨漏れなど緊急対応が必要な案件があったものの、事業としては、計画的・効果的に修繕等を行い、良好な教育環境の維持をおおむね達成することができた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>施設の老朽化対策が課題となっているため、維持管理工事と修繕で対応しているが、更なる老朽化対策が必要である。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>「川西市公共施設等総合管理計画」などの方針を踏まえ、平成30年度に策定される「(仮称)川西市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的な修繕を行い、安全で安心できる快適な教育環境の整備を推進する。</p>						

※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校施設維持管理事業			決算書頁	336
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	都市政策部 公共施設マネジメント課	作成者	主幹 小林 尚司		

2. 事業の目的

生徒の安全を確保し、良好な教育環境を維持する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	49,006	38,726	10,280	一般財源	41,906	38,726	3,180
内 事業費	40,400	29,955	10,445	国県支出金			
内 職員人件費	8,606	8,771	△ 165	地方債	7,100		7,100
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	1	1		特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	40,400
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) 29年度の取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校7校の施設・設備の維持管理のため、校舎修繕、器具修繕を実施した。 ・洋式便器化及び照明設備のセンサー化などを学校と調整しながら実施した。 ・消防設備・プールろ過循環装置など保守点検で判明した不良箇所等の修繕を実施した。 ・校庭の水はけ等の改良を行うため運動場整備を実施した。 ・台風による施設の損傷箇所の復旧修繕を実施した。 ・成果としては、雨漏りなどの突発的な案件の対応に苦慮したが、計画的・効果的に事業を進め、学校活動の環境を維持した。 		
<p>手洗い場修繕 (川西南中学校)</p> <p>↓ 増設</p>  <p>↑ 修繕した手洗い</p> <p>修繕概要 老朽破損した手洗いを修繕するとともに増設を行った</p> 	<p>照明設備修繕 (清和台中学校)</p> <p>↓ 修繕箇所</p>  <p>↑ 修繕箇所</p> <p>修繕概要 老朽した配線修繕とともにセンサー化を実施</p> 		

<p>プール槽内塗装修繕 (緑台中学校)</p>		<p>放送卓修繕 (明峰中学校)</p>	
<p>↓ 修繕後</p> 	<p>↑ 修繕前 修繕概要 老朽化したプール槽内 表面の塗装修繕</p>	<p>↓ 修繕後</p> 	<p>↑ 修繕前 修繕概要 老朽化した放送卓の 取替え</p>
<p>給水管修繕 (緑台中学校)</p>		<p>グラウンド修繕 (多田中学校)</p>	
<p>↓ 修繕後</p> 	<p>↑ 修繕中 修繕概要 老朽し、漏水した埋設 給水管の部分修繕</p>	<p>↓ 修繕後</p> 	<p>↑ 修繕中 修繕概要 グラウンド鋤取り、真 砂土を搬入して不陸整 正及び老朽化したライン マーク取替</p>

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

<p>自己評価</p> <table border="1" data-bbox="220 1406 683 1662"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>雨漏れなど緊急対応が必要な案件があったものの、事業としては、計画的・効果的に修繕等を行い、良好な教育環境の維持をおおむね達成することができた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>施設の老朽化対策が課題となっているため、維持管理工事と修繕で対応しているが、更なる老朽化対策が必要である。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>「川西市公共施設等総合管理計画」などの方針を踏まえ、平成30年度に策定される「(仮称)川西市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的な修繕を行い、安全で安心できる快適な教育環境の整備を推進する。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校施設維持管理事業		決算書頁	336
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	都市政策部 公共施設マネジメント課	作成者	主幹 小林 尚司	

2. 事業の目的

子どもたちの安全を確保し、良好な教育環境を維持する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	4,287	12,087	△ 7,800	一般財源	4,287	5,687	△ 1,400
内 事業費	4,287	12,087	△ 7,800	国県支出金			
内 職員人件費				地方債		6,400	△ 6,400
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)				特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	特別支援学校施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	4,287
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) 29年度の取組と成果			
<ul style="list-style-type: none"> 川西養護学校の施設・設備の維持管理のため、校舎修繕、器具修繕を実施した。 老朽化した家庭科室の床の改修を実施した。 洋式便器化及び照明設備のセンサー化などを実施した。 消防設備・プール過循環装置など保守点検で判明した不良箇所等の修繕を実施した。 成果としては、計画的・効果的に事業を進め、学校活動の環境を維持した。 			
家庭科室修繕	 <p>↓ 修繕後→</p>	 <p>↓ 修繕中</p>	<p>↓ 修繕前</p> 
			
			

照明設備修繕

↓ 修繕前



↓ 修繕後



修繕概要
老朽した照明設備修繕とともにセンサー化を実施

盤内機器修繕

↓ 修繕前



↓ 修繕後



修繕概要
老朽した電気設備機器の更新

**便所修繕
(来賓・職員便所)**

↓ 修繕前(和式)



↓ 修繕後(洋式)



修繕概要
便器の洋式化を実施

発電機用蓄電池修繕

↓ 発電機盤



↓ 修繕後



修繕概要
経年劣化で容量が不足した蓄電池の取替え

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td style="width: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td style="width: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>電気設備機器など緊急対応が必要な案件があったものの、事業としては、計画的・効果的に修繕等を行い、良好な教育環境の維持をおおむね達成することができた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>施設の老朽化対策が課題となっているため、維持管理工事と修繕で対応しているが、計画的な修繕計画等を策定する必要がある。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>「川西市公共施設等総合管理計画」などを踏まえ、「(仮称)川西市学校施設長寿命化計画」の策定に取り組み、安全で安心できる快適な教育環境の整備を推進する。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	教育施設耐震化事業			決算書頁	336
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します				
所管部・課	都市政策部 公共施設マネジメント課	作成者	主幹 小林 尚司		

2. 事業の目的

子どもたちの安全を確保し、安心な教育環境を提供する

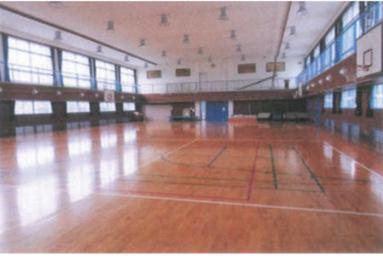
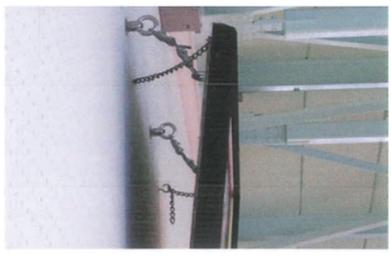
3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	696,830	920,917	△ 224,087	一般財源	495,080	489,448	5,632
内 事業費	212,347	431,525	△ 219,178	国県支出金	67,250	142,469	△ 75,219
内 職員人件費		8,771	△ 8,771	地方債	134,500	289,000	△ 154,500
内 公債費	484,483	480,621	3,862	特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)		1	△ 1	特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	教育施設耐震対策事業	細事業事業費(千円)	212,347
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) 29年度の取組と成果	<p>学校園施設は、子ども達が一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難場所となる重要な役割を担っていることから、早期の耐震化が求められている。</p> <p>【非構造部材落下防止対策工事の実施】</p> <p>平成23年3月の東北地方太平洋沖地震や平成28年4月の熊本地震において、学校施設の屋内運動場の天井材が全面的に崩落するなどの被害から、大地震における非構造部材の落下防止対策工事を平成28年度に引き続き実施した。</p> <p>※非構造部材：柱、はり、床などの構造体でなく、吊り天井、照明器具、バスケットゴールなど、構造体と区分された部材のこと。</p>		
けやき坂小学校	 <p>主な工事内容 吊り天井撤去 照明器具LED化 壁付バスケットゴール取替 額・時計補強等</p> <p>施工前</p>	 <p>施工後</p>	
桜が丘小学校	 <p>主な工事内容 吊り天井撤去 照明器具LED化 壁付バスケットゴール取替 額・時計・スピーカー補強等</p> <p>施工前</p>	 <p>施工後</p>	

川西小学校 (屋内運動場) 全景		主な工事内容 吊り天井撤去 壁付バスケットゴール取替 額・時計・スピーカー補強等	
			
	施工前		施工後
額等落下 防止措置		脱落防止ワイヤを設置	
			
	施工前		施工後
(多目的ホール)		主な工事内容 吊り天井撤去・軽量耐震 天井設置 照明器具LED化 スピーカー補強等	
			
	施工前		施工後

【工事対象校：小学校8校】
川西小学校、桜が丘小学校、明峰小学校、多田小学校、清和台南小学校、多田東小学校、
けやき坂小学校、牧の台小学校

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価		29年度の事業の達成状況						
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="231 1411 582 1489">市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td data-bbox="598 1411 678 1489"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1489 582 1568">市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td data-bbox="598 1489 678 1568" style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1568 582 1646">市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td data-bbox="598 1568 678 1646"></td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○	市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。		平成28年度から引き続いて、屋内運動場等非構造部材落下防止対策工事を小学校8校において実施し、市内全小学校・全中学校・特別支援学校（計24校）の屋内運動場等の非構造部材落下防止対策工事は完了した。	
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。								
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。								
課題と改善について		30年度以降における具体的な方向性について						
耐震補強工事及び非構造部材落下防止対策工事は完了したものの、施設の老朽化は進んでおり対策を講じる必要がある。		施設の老朽化対策として、「川西市公共施設等総合管理計画」などを踏まえ、「（仮称）川西市学校施設長寿命化計画」の策定に取り組み、安全で安心できる快適な教育環境の整備を推進する。						
※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。								

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小中学校及び幼稚園等空調設備整備 P F I 推進事業		決算書頁	338
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	都市政策部	公共施設マネジメント課	作成者	主幹 小林 尚司

2. 事業の目的

安全で快適な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	1,748,308	39,142	1,709,166	一般財源	19,274	39,142	△ 19,868
内訳	事業費	1,739,702	30,371	1,709,331	国県支出金	523,934	523,934
	職員人件費	8,606	8,771	△ 165	地方債	1,205,100	1,205,100
	公債費				特定財源(都市計画税)		
参考	職員数(人)	1	1	特定財源(その他)			
	再任用職員数(人)						

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小中学校及び幼稚園等空調設備整備 P F I 推進事業	細事業事業費(千円)	1,739,702
--------	-----------------------------	------------	-----------

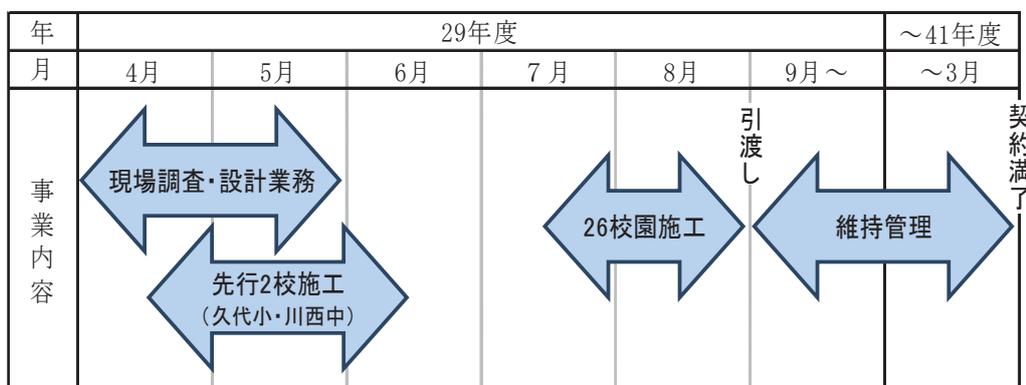
(1) 参画と協働の主な手法(実績)

(2) 29年度の取組と成果

①事業スケジュール

平成29年3月より着手した小中学校及び幼稚園等空調設備整備にかかる、現場調査や設計業務を平成29年5月まで実施するとともに、4月中旬から6月中旬に久代小学校と川西中学校を他に先行して施工を行い、品質検証において問題点を洗い出し、改善されることで全体の品質向上、均質化、またスケジュールの順守を図り、その他26校園は7月中旬着手し、夏休み終了までに施工を終え、設備の引き渡しを受けた。

その後、平成41年度末まで設備の維持管理を行う。



PFI事業とは、公共事業を実施するための手法の一つであり、民間の資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を包括的に行う手法。正式名称はPrivate-Finance-Initiative(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)で頭文字を取ってPFIと呼ばれています。

②空調設備整備対象室

小中学校及び幼稚園等の普通教室、特別教室、特別教室準備室、職員室等管理諸室、保健室、給食室、放送室、更衣室、地域開放室、児童育成クラブ室に整備しました。

さらに川西養護学校のみ、屋内運動場、トイレ及び廊下に整備しました。

対象校及び対象室数一覧

番号	学校園名	室数	新設室数	更新室数	機器台数
1	久代小学校	7	4	3	18
2	加茂小学校	11	4	7	23
3	川西小学校	59	1	58	119
4	桜が丘小学校	20	16	4	46
5	川西北小学校	26	21	5	42
6	明峰小学校	55	51	4	101
7	多田小学校	39	30	9	72
8	多田東小学校	52	42	10	99
9	緑台小学校	46	37	9	90
10	陽明小学校	40	36	4	74
11	清和台小学校	20	19	1	35
12	清和台南小学校	38	37	1	71
13	けやき坂小学校	42	33	9	85
14	東谷小学校	33	30	3	53
15	牧の台小学校	52	43	9	98
16	北陵小学校	51	43	8	95
17	川西南中学校	59	4	55	100
18	川西中学校	3	2	1	3
19	明峰中学校	43	34	9	69
20	多田中学校	55	52	3	91
21	緑台中学校	41	22	19	69
22	清和台中学校	54	48	6	93
23	東谷中学校	62	59	3	106
24	川西養護学校	38	9	29	79
25	久代幼稚園	8	0	8	17
26	多田幼稚園	9	8	1	15
27	清和台幼稚園	8	6	2	18
28	東谷幼稚園	8	7	1	16
総数		979	698	281	1,797

普通教室・室内機



普通教室は能力の異なる機器を2台設置し、気候に応じた運転操作を行うことで、省エネ効果を見込む。

図書室・室内機



集中リモコン・待機電力カットスイッチ



職員室に本事業で設置した新設機器及び事業対象外の既設機器の状態監視、運転制御ができる集中リモコンを設置。
上部は運転を行わない期間に待機電力をカットするスイッチ。

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価		29年度の事業の達成状況					
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td></td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○	市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。		<p>空調機器の整備時期が、夏休み期間に集中していたが、事前に学校園、地元自治会、コミュニティー及びPFI事業者と連絡・調整を密にするとともに、PFI特有のリスク分担を明確に出来たことで、8月末の機器引き渡しを無事に終えた。</p> <p>維持管理についても、しっかりとモニタリングを実現し、学校園等の教育環境の維持・保全が図れている。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○						
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。							
<p>課題と改善について</p> <p>本事業で大量の空調機器を新設、更新したことで増えたエネルギー使用量を安全で快適に過ごせる教育環境を確保しつつ効率的で最適な空調機器運転の実施及び安定した機器の性能を確保することが重要である。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>新設機器のモニタリングデータを活用した助言、支援の活用及び運用データを活かした機器の取扱いを学校園に説明することで、省エネルギーに向けた効果的な運転の実施につなげたい。また、PFI事業者から提出される維持管理報告書をもとに学校園等の教育環境の維持・保全を図っていく。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生涯学習推進事業			決算書頁	338
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	主幹 田中 肇	

2. 事業の目的

学習ニーズに応じた学習情報提供システムを構築する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	20,417	20,688	△ 271	一般財源	20,417	20,688	△ 271
内 事業費	3,205	3,146	59	国県支出金			
内 職員人件費	17,212	17,542	△ 330	地方債			
内 公債費				特定財源 (都市計画税)			
参考 職員数 (人)	2	2		特定財源 (その他)			
再任用職員数 (人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業 1>	生涯学習推進事業	細事業事業費 (千円)	3,205
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)	審議会・検討会	団体等への補助	
(2) 29年度の取組と成果			
(社会教育委員の会)			
「社会教育法」に基づき、社会教育に関する助言や諸計画の立案、また教育委員会の諮問に応じ意見を述べ、必要な研究調査などを行う社会教育委員を設置。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成委員：学識経験者、学校教育・社会教育・家庭教育の関係者 (10名) ・ 年6回社会教育委員の会を開催 ・ 年間研究テーマ「社会教育の再生～気楽に行ける公民館～」 ・ 公民館の現状と課題を論議し、公民館活性化の方策について提言を得た。 			
(身体障害者社会学級の開催)			
阪神地区に在住の16歳以上の聴覚・言語障がい者(くすの木学級)、視覚障がい者(青い鳥学級)を対象に社会人としての幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、交流の場として相互理解を深め、ともに生きる喜びを創造する場を提供することを目的に県の委託事業として阪神地区管内の7市1町で開催。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神くすの木学級：三田教室を2回実施。(健康体操、社会見学：有馬富士公園他) 対象市町村：伊丹市、宝塚市、三田市、川西市、猪名川町、西宮市、尼崎市、芦屋市 (7市1町) ・ 阪神青い鳥学級北支部：宝塚教室を3回実施。(歴史講話、対面朗読、社会見学：清荒神他) 対象市町村：伊丹市、宝塚市、三田市、川西市、猪名川町 (4市1町) 			

(社会教育関係団体補助金)

・奉仕活動、ユネスコ憲章に基づく事業などを推進するための活動の支援を行うため、下記の社会教育関係団体に補助金を交付した。これに伴い、安定した事業が実施された。

補助金交付状況	(単位：千円)				
団体名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
川西市婦人会	90	90	90	90	90
川西ユネスコ協会	90	90	90	90	90

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員の会では、公民館長との意見交換を交えながら、川西市の公民館が抱える課題を分析し、今後公民館に求められる役割について審議が行われ、報告がなされた。 ・身体障害者社会学級においては参加しやすい環境づくりに努めることで口コミによる新規参加者増加へとつながった。 ・社会教育関係団体については、事業に対して支援、協力を行ったことで安定した活動につながった。
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員の会から提出された審議報告を各事業の運営に活かす運営方法を検討する必要がある。 ・身体障害者社会学級については、参加者の高齢化、固定化が進んでいるため、参加を促進する工夫が必要である。 	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議報告について教育委員会内で情報共有を行い、各事業運営に活かしていきたい。また、平成30年度よりメンバーが変わり、新体制となる。この機会に川西市における社会教育の現状を見つめ直し、新たな視点から意見を得たい。 ・身体障害者社会学級については、積極的に情報発信を行うとともに、学習環境の充実を図り、学習支援に努めたい。 ・社会教育関係団体の活動を引き続き支援し、自立と活動の地域還元を促していく。 						
<small>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</small>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生涯学習短期大学運営事業			決算書頁	338
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	主幹 田中 肇	

2. 事業の目的

生涯学習推進の核として生涯学習短期大学の学習環境を整備し生涯学習の定着・進展を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		29年度	28年度	比較	財源		29年度	28年度	比較
		総事業費	32,947	30,123			2,824	一般財源	27,614
内訳	事業費	16,765	13,694	3,071	国県支出金				
	職員人件費	8,606	8,771	△ 165	地方債				
	公債費	7,576	7,658	△ 82	特定財源(都市計画税)				
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)	5,333	6,084	△ 751	
	再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	生涯学習短期大学運営事業	細事業事業費(千円)	16,765
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	講座・フォーラム	審議会・検討会	市民等からの意見
(2) 29年度の取組と成果			
<p>市内在住・在勤者を対象に、自己の充実や生きがいの創出をめざすため、自らの意志により学習するライフスタイルの発見、生き方の確立、さらには習得した知識などを社会貢献として地域の活性化に役立てていただくことをめざして、平成6年に2年制の短期大学を想定した生涯学習短期大学レフネックを開校。毎年、複数の専攻学科を選定し、大学程度の専門的かつ高度な学習内容で2年間にわたり40回講義を継続して、系統的な学習を行っている。その他、生涯学習短期大学レフネックの学生を対象として、知識や技術が習得できる課外講座や学生及び一般の市民も受講できるオープン講座を実施した。</p> <p>平成27年度と28年度でそれぞれ2つの専攻学科(1年次)の定員を各70名から各100名に増員し、平成29年度も多くの市民の方に学習の機会を提供することができた。</p>			
【専攻学科】			
23期・2年次・・・地理学科 91名、生命化学科 85名			
24期・1年次・・・文化遺産学科 82名、水産学科 65名			
【オープン講座】			
①よくわかる iPS細胞講座 4回(延受講者数704名)			
②観光の視点から「川西市」の魅力を考える 4回(延受講者数400名)			
③少子・高齢化の経済学 4回(延受講者数298名)			
【課外講座】			
①パソコン教室 4回・2コース(延受講者数74名)			
②陶芸教室 4回・1コース(延受講者数57名)			
③かわにし郷土教室 4回・1コース(延受講者数69名)			

【生涯学習短期大学レフネック入学希望充足率】

レフネックは、毎年募集する学科内容が異なるため、単純比較は難しいものの、ここ数年の充足率は上がってきている。また、入学実績がなく、落選経験のある応募者に一定の優先枠を設けるなどの機会均等に努めた。

	H25	H26	H27	H28	H29
募集定員	140	140	200	200	200
応募者数	229	187	247	219	147
希望充足率	62%	75%	81%	92%	100%

(小数点以下切り上げ)



「2年次 地理学科」講義風景



「課外講座 かわにし郷土教室」講座風景

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>29年度も27年度から引き続き受け入れ拡大した定員を設定し、多くの方に受講の機会を付与するとともに、各学科についても、市民が求める高度でかつ専門的・系統的な学習内容を提供することができた。ただ、新しく募集した学科については欠員が生じた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>新規募集学科の欠員については、その要因を検討し、市民の関心がある講座の選定を継続していく必要がある。また各学科ともリピーターや男性の割合が多いことから、その改善に向けて工夫が必要である。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>自己実現の場として年齢を問わず、レフネックへの入学を希望する声は多い。在校生へのアンケートを実施するとともに、過去の受講者のデータなど情報を分析し、新規入学者や女性の興味を引くような講座を選定していく。またレフネック修了者が講座で得られた知識や経験などを自己の活動につなげて地域で活かせるような支援づくりを進めたい。</p>						
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	公民館運営事業			決算書頁	344
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部 教育推進部	中央公民館 社会教育課	作成者	館長 藤井 恵子 主幹 田中 肇	

2. 事業の目的

生涯学習の拠点としての学習機会の充実を図り、学習成果を生かせる仕組みづくりに努める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	296,336	297,005	△ 669	一般財源	269,333	268,791	542
内 事業費	189,907	189,512	395	国県支出金			
内 職員人件費	86,942	95,602	△ 8,660	地方債			
内 公債費	19,487	11,891	7,596	特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	7	8	△ 1	特定財源(その他)	27,003	28,214	△ 1,211
再任用職員数(人)	6	6					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	公民館運営事業	細事業事業費(千円)	188,127																																																																																										
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	講座・フォーラム	団体等との共催・連携																																																																																											
(2) 29年度の取組と成果	<p>生涯学習の拠点として、社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために必要な課題講座、市民の多様化・高度化する学習ニーズに対応した講座や時代に即した趣味・実技の講座を開催するとともに、子ども対象の講座を実施した。</p> <p>また、市民への学習機会の提供を行うとともに、学習意欲向上を図るため、情報提供や環境の充実に努めた。</p>																																																																																												
1. 公民館利用件数及び延べ利用人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>人数</th> <th>件数</th> <th>人数</th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央</td> <td>3,426</td> <td>79,584</td> <td>3,184</td> <td>69,719</td> <td>3,065</td> <td>78,051</td> </tr> <tr> <td>川西南</td> <td>933</td> <td>13,479</td> <td>1,025</td> <td>16,701</td> <td>1,016</td> <td>16,877</td> </tr> <tr> <td>明峰</td> <td>1,319</td> <td>23,709</td> <td>1,287</td> <td>21,938</td> <td>1,227</td> <td>21,147</td> </tr> <tr> <td>多田</td> <td>1,238</td> <td>17,485</td> <td>1,222</td> <td>18,053</td> <td>1,141</td> <td>17,746</td> </tr> <tr> <td>緑台</td> <td>1,827</td> <td>33,091</td> <td>1,748</td> <td>33,205</td> <td>1,611</td> <td>30,992</td> </tr> <tr> <td>けやき坂</td> <td>1,345</td> <td>17,791</td> <td>1,481</td> <td>19,908</td> <td>1,341</td> <td>19,944</td> </tr> <tr> <td>清和台</td> <td>1,419</td> <td>21,218</td> <td>1,410</td> <td>20,407</td> <td>1,356</td> <td>19,683</td> </tr> <tr> <td>東谷</td> <td>255</td> <td>3,985</td> <td>1,780</td> <td>28,414</td> <td>1,781</td> <td>27,838</td> </tr> <tr> <td>北陵</td> <td>1,529</td> <td>25,430</td> <td>1,239</td> <td>22,606</td> <td>1,257</td> <td>21,325</td> </tr> <tr> <td>黒川</td> <td>205</td> <td>7,563</td> <td>225</td> <td>4,695</td> <td>173</td> <td>3,356</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13,496</td> <td>243,335</td> <td>14,601</td> <td>255,646</td> <td>13,968</td> <td>256,959</td> </tr> </tbody> </table>			年度	27年度		28年度		29年度		件数	人数	件数	人数	件数	人数	中央	3,426	79,584	3,184	69,719	3,065	78,051	川西南	933	13,479	1,025	16,701	1,016	16,877	明峰	1,319	23,709	1,287	21,938	1,227	21,147	多田	1,238	17,485	1,222	18,053	1,141	17,746	緑台	1,827	33,091	1,748	33,205	1,611	30,992	けやき坂	1,345	17,791	1,481	19,908	1,341	19,944	清和台	1,419	21,218	1,410	20,407	1,356	19,683	東谷	255	3,985	1,780	28,414	1,781	27,838	北陵	1,529	25,430	1,239	22,606	1,257	21,325	黒川	205	7,563	225	4,695	173	3,356	合計	13,496	243,335	14,601	255,646	13,968	256,959
年度	27年度		28年度		29年度																																																																																								
	件数	人数	件数	人数	件数	人数																																																																																							
中央	3,426	79,584	3,184	69,719	3,065	78,051																																																																																							
川西南	933	13,479	1,025	16,701	1,016	16,877																																																																																							
明峰	1,319	23,709	1,287	21,938	1,227	21,147																																																																																							
多田	1,238	17,485	1,222	18,053	1,141	17,746																																																																																							
緑台	1,827	33,091	1,748	33,205	1,611	30,992																																																																																							
けやき坂	1,345	17,791	1,481	19,908	1,341	19,944																																																																																							
清和台	1,419	21,218	1,410	20,407	1,356	19,683																																																																																							
東谷	255	3,985	1,780	28,414	1,781	27,838																																																																																							
北陵	1,529	25,430	1,239	22,606	1,257	21,325																																																																																							
黒川	205	7,563	225	4,695	173	3,356																																																																																							
合計	13,496	243,335	14,601	255,646	13,968	256,959																																																																																							
3. 公民館図書室利用状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">蔵書数(冊)</td> <td>一般図書</td> <td>53,815</td> <td>51,835</td> <td>48,420</td> </tr> <tr> <td>児童書</td> <td>55,300</td> <td>54,482</td> <td>53,005</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>109,115</td> <td>106,317</td> <td>101,425</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">貸出数(冊)</td> <td>一般図書</td> <td>66,011</td> <td>67,227</td> <td>66,369</td> </tr> <tr> <td>児童書</td> <td>55,908</td> <td>64,148</td> <td>65,968</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>121,919</td> <td>131,375</td> <td>132,337</td> </tr> </tbody> </table>				27年度	28年度	29年度	蔵書数(冊)	一般図書	53,815	51,835	48,420	児童書	55,300	54,482	53,005	合計	109,115	106,317	101,425	貸出数(冊)	一般図書	66,011	67,227	66,369	児童書	55,908	64,148	65,968	合計	121,919	131,375	132,337																																																												
	27年度	28年度	29年度																																																																																										
蔵書数(冊)	一般図書	53,815	51,835	48,420																																																																																									
	児童書	55,300	54,482	53,005																																																																																									
	合計	109,115	106,317	101,425																																																																																									
貸出数(冊)	一般図書	66,011	67,227	66,369																																																																																									
	児童書	55,908	64,148	65,968																																																																																									
	合計	121,919	131,375	132,337																																																																																									
2. 対象別講座一覧 ※数字は、講座数(開催回数)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">高齢者</th> <th colspan="2">成人</th> <th colspan="2">青少年(幼児・親子)</th> <th colspan="2">その他</th> <th colspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27年度</td> <td>5</td> <td>116</td> <td>125</td> <td>277</td> <td>37</td> <td>289</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>186</td> <td>701</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>5</td> <td>118</td> <td>115</td> <td>230</td> <td>42</td> <td>334</td> <td>21</td> <td>23</td> <td>183</td> <td>705</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>3</td> <td>112</td> <td>110</td> <td>205</td> <td>47</td> <td>333</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>180</td> <td>672</td> </tr> </tbody> </table>			年度	高齢者		成人		青少年(幼児・親子)		その他		合計		講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	27年度	5	116	125	277	37	289	19	19	186	701	28年度	5	118	115	230	42	334	21	23	183	705	29年度	3	112	110	205	47	333	20	22	180	672																																				
年度	高齢者		成人		青少年(幼児・親子)		その他		合計																																																																																				
	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数																																																																																			
27年度	5	116	125	277	37	289	19	19	186	701																																																																																			
28年度	5	118	115	230	42	334	21	23	183	705																																																																																			
29年度	3	112	110	205	47	333	20	22	180	672																																																																																			

<細事業2>	高齢者大学開設事業	細事業事業費（千円）	1,780	
(1) 参画と協働の主な手法（実績）		団体等への委託		
(2) 29年度の取組と成果				
<p>高齢者大学は、地域住民や高齢者の生涯学習への参加を促進するため、60歳以上の市民を対象に学習年限を2年としており、一般教養講座（必須）は社会問題、国際情勢、歴史、文学、生活学習等について11回開催し、専門学科は文芸・水墨画・自然・歴史・わがまち・ことばの6専門学科を各16回開催した。</p> <p>また、本市の特色や実情等を勘案し、生きがいづくりと地域活動につながるよう内容の充実を図った。</p>				
1. 高齢者大学受講者の推移				
		27年度	28年度	29年度
受講者 (人)	専門学科	220	245	247
	老人クラブ	47	42	28
	合計	267	287	275
出席率 (%)	一般教養	72	71	71
	専門学科	82	81	83
	全体	78	78	77

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>幅広い世代を対象に一般教養や現代的課題をはじめ、地域の特性などを学ぶことができる「川西まちづくり講座」、地域のニーズに合わせた様々な講座を企画実施し、各地区の学びの拠点として取り組んできた。講座受講生アンケートの満足度は前年と比べ0.1ポイント増の86.0%となり、目標値の87.0%に近づいた。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>公民館講座や高齢者大学の実施を通じて、様々な社会の変化や市民の学習ニーズに対応した学習と自己実現の機会の充実を図るとともに、地域づくりの主体を形成する学びの拠点となる必要がある。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>市民の学ぶ意欲を高め、支えるため、社会の変化に応じた講座の実施、グループ活動の支援等を引き続き行うとともに、学習の成果が地域で活用されるよう地域の諸団体等と連携し、市民の参画と協働を支援する学習機会を提供する。さらに子どもの居場所としての活用など、生涯学習、地域活動の拠点となるよう努めていく必要がある。</p>						
<small>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</small>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	公民館維持管理事業			決算書頁	346
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	中央公民館	作成者	館長 藤井 恵子	

2. 事業の目的

公民館利用の促進を図るため、必要な施設及び設備を備えるように努める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
		総事業費	26,390	19,993		6,397	一般財源	23,490
内訳	事業費	17,784	6,983	10,801	国県支出金			
	職員人件費	8,606	13,010	△ 4,404	地方債	2,900		2,900
	公債費				特定財源(都市計画税)			
参考	職員数(人)	1	1		特定財源(その他)			
	再任用職員数(人)		1	△ 1				

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	公民館維持管理事業	細事業事業費(千円)	17,784																								
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																											
(2) 29年度の取組と成果	<p>安全で快適な学習環境を維持し、公民館利用者の促進を図るため、老朽化が著しい施設及び設備の改修、改善を実施した。</p> <p>1. 主な修繕内訳 (円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>公民館名</th> <th>内 容</th> <th>執行額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清和台公民館</td> <td>駐車場修繕</td> <td>2,419,480</td> </tr> <tr> <td>多田公民館</td> <td>高圧受電設備修繕</td> <td>2,262,600</td> </tr> <tr> <td>緑台公民館</td> <td>吸収式冷温水機燃焼系統修繕</td> <td>933,120</td> </tr> <tr> <td>中央公民館</td> <td>大集会室等系統空調機温水コイル取替作業</td> <td>417,420</td> </tr> <tr> <td>北陵公民館</td> <td>2階テラス防水等修繕</td> <td>313,200</td> </tr> <tr> <td>けやき坂公民館</td> <td>電気給湯器修繕</td> <td>221,400</td> </tr> <tr> <td>東谷公民館</td> <td>防火扉修繕</td> <td>212,161</td> </tr> </tbody> </table>			公民館名	内 容	執行額	清和台公民館	駐車場修繕	2,419,480	多田公民館	高圧受電設備修繕	2,262,600	緑台公民館	吸収式冷温水機燃焼系統修繕	933,120	中央公民館	大集会室等系統空調機温水コイル取替作業	417,420	北陵公民館	2階テラス防水等修繕	313,200	けやき坂公民館	電気給湯器修繕	221,400	東谷公民館	防火扉修繕	212,161
公民館名	内 容	執行額																									
清和台公民館	駐車場修繕	2,419,480																									
多田公民館	高圧受電設備修繕	2,262,600																									
緑台公民館	吸収式冷温水機燃焼系統修繕	933,120																									
中央公民館	大集会室等系統空調機温水コイル取替作業	417,420																									
北陵公民館	2階テラス防水等修繕	313,200																									
けやき坂公民館	電気給湯器修繕	221,400																									
東谷公民館	防火扉修繕	212,161																									



アスファルト舗装された
清和台公民館駐車場



5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価		29年度の事業の達成状況					
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>市内10公民館の施設の保守整備に努め、突発的な修繕については迅速に修繕等を行った。</p> <p>また、緑台公民館の耐震補強工事に向けて耐震設計を行った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>老朽化の著しい公民館もあり、安全で快適な学習環境を確保し、利用促進を図るために順次、計画的に施設・設備の改修を行っていく必要がある。また、黒川公民館の改修については、(仮称)里山センターの整備を含め、観光施策と一体的に行っていく。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>市民の学びの場としての環境を整えるため公民館の維持管理を行ってきたが、今後も利用者が利用しやすいよう、施設、設備の改善を行っていく必要がある。</p> <p>平成30年9月に中央公民館のキセラ川西プラザへの移転及び30年9月から緑台公民館の耐震補強等工事を予定している。</p>						
<small>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</small>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	図書館運営事業		決算書頁	346
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます			
所管部・課	教育推進部	中央図書館	作成者	館長 村山 尚子

2. 事業の目的

図書館資料の収集・整理・保存をおこない、市民等の利用者へ供し、生涯学習を支援する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	131,107	131,941	△ 834	一般財源	130,558	131,433	△ 875
内 事業費	96,683	96,857	△ 174	国県支出金	144		144
内 職員人件費	34,424	35,084	△ 660	地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	4	4		特定財源(その他)	405	508	△ 103
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	図書館運営事業	細事業事業費(千円)	96,683
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携	講座・フォーラム	審議会・検討会
(2) 29年度の取組と成果			
○取組内容			
1. 図書館資料(本、雑誌、CD等)を収集・整理・保存し、市民等の利用に供したほか、読書案内・読書相談及び調査相談を実施した。			
2. 学校・幼稚園・保育所等の登録団体に団体貸出を実施した。			
3. 公民館図書室(黒川除く)との相互連携のため、本の配送等を実施した。			
4. 子どもの読書活動の推進のため、おはなし会や夏休み特別行事を実施した。また「ぼくとわたしのえほんてちょう」を作成し配布した。			
5. 図書館ボランティアの養成講座を実施し、修了生の活動の場を提供するとともに、図書館サービスの充実を図った。			
①「音訳ボランティア養成講座(デイジー図書作成編)」全4回を、「入門講座」の終了生を対象に、ステップアップ講座として実施			
②「音訳ボランティア講座」全2回:既に活動中のボランティアを対象に実施			
③視覚障がい者への対面朗読サービスの実施、DAISY(デイジー)図書、点字図書の作成			
④おはなしボランティアの活動支援、連携により絵本の読み聞かせ等の実施			
⑤新規の図書館ボランティア(返却本の配架や書架整理など開館前の準備を行う)の養成			
6. 図書館見学・実習・体験の受入を行った。			
①小学3年生の社会見学:13校、延べ1,138人			
②「図書館員体験」(小学4~6年生対象):2組4人			
③トライやる・ウィーク受入:3校6人			
④高校生自主体験学習(4人)、新任教諭初任者研修(3人)			
7. 学校図書館応援プロジェクトとして資料の無償譲渡や巡回貸出、担当教諭や学校司書対象の講座等(2回実施63人)を実施し、学校図書館への支援強化を図った。			
8. 市民のリサイクル意識の醸成を図るため、また、財源確保のため有償の「図書リサイクル展」を実施した。 譲渡冊数:3,403冊 収益:34,030円			
9. 豊能町立図書館との相互利用を開始した(平成30年1月4日から)。 川西市民(豊能町民)で、豊能町(川西市)に在勤・在学でない人も豊能町立図書館(川西市立図書館)で個人貸出等が可能になった。			

1 (1) 蔵書冊数・開館日数・来館者数・貸出者数・貸出冊数

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
蔵書冊数(冊)	324,551	329,694	333,998	332,327	327,942
開館日数(日)	288	286	288	287	289
来館者数(人)	429,777	418,337	372,616	402,729	386,989
貸出者数(人)	292,661	285,268	289,915	276,105	270,103
貸出冊数(冊)	823,423	795,684	798,631	754,344	719,102
有効登録者数(人)	20,564	20,558	20,685	19,704	19,167

来館者: 27年度については算出方法が異なる

(2) 予約件数の推移

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予約件数(件)	138,283	133,626	135,435	131,766	130,206
うちインターネット 予約件数(件)	104,764	103,523	105,460	105,312	105,714

予約: 10冊まで

2. 団体貸出実績

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
登録団体数	81	81	111	104	102
貸出冊数(冊)	19,100	22,858	30,059	24,715	25,307

団体貸出: 200冊8週間

登録団体: 市内の学校、幼稚園、保育所、民間文庫等で図書館に登録している団体

3. 公民館との相互連携(配送)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
配送回数(回)	98	97	96	96	97
配送冊数(冊)	41,136	40,970	39,135	40,854	42,540

配送: 週2回

4. ボランティアの活動状況

	人数(人)	資料作成数*
音訳ボランティア	30	131
点訳ボランティア	11	7

	人数(人)	活動回数(回)
おはなしボランティア	22	98

*資料作成数:(タイトル数)

5. 登録グループの活動状況

	人数(人)	活動回数(回)
子育て支援グループ いらないないばあ	19	10
おはなしポムポム	9	18
川西おはなしの会ひばり	15	19
文学グループパトスの会	40	10
北摂児童文学会	10	9
朗読同好会「草笛」	8	23
早春本句会	34	6
川西の古文書と歴史に親しむ会	17	8



夏休み子どもの本と読書の講習会

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。		市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○	<p>29年度の事業の達成状況</p> <p>①団体貸出や公民館との相互連携は増加したが、個人利用は減少。②新たなボランティアの養成や新規イベントにより、来館のきっかけづくりに努めた。③子どもの読書活動推進事業等により、学校等との連携・支援の強化を図った。④利用しやすい書架づくりに向け、書架を増設し計画的に資料の整理を行った。</p>
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。							
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	○						
<p>課題と改善について</p> <p>①図書館内の利用は減少傾向だが、インターネット利用等により図書館以外の施設での本の受け取りが定着。市民が求める今後の図書館サービスについての検討が必要。②魅力ある施設を目指し、資料の収集・整理・保存の計画的な取り組みとレイアウトの工夫、利用PRが必要。</p> <p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <p>①館内(施設面や資料)の充実は図りつつも、市内施設や団体等への読書サービス網の中心的役割を果たしていく。 ②学校等との連携・支援を推進し、間接的に図書館から遠方の児童へのサービス向上となるよう努める。 ③ボランティアの活動支援等、市民の参画と協働を図りながら、知識や出会いを得られる場所としての存在価値を高める。</p>						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	図書館施設維持管理事業			決算書頁	348
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます				
所管部・課	教育推進部	中央図書館	作成者	館長 村山 尚子	

2. 事業の目的

利用者が良好な状態で図書館を利用できるよう維持管理を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	44,010	47,316	△ 3,306	一般財源	44,010	47,316	△ 3,306
内 事業費	44,010	47,316	△ 3,306	国県支出金			
内 職員人件費				地方債			
内 公債費				特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)				特定財源(その他)			
再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	図書館施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	44,010
--------	-------------	------------	--------

(1) 参画と協働の主な手法(実績)

(2) 29年度の取組と成果

○取組内容

図書館設備の保守点検や定期清掃等を行い、利用者が良好な状態で図書館を利用できるよう施設の維持管理を行った。

事業費の推移

(単位:千円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費全体	42,806	45,375	45,789	47,316	44,010

図書館正面入り口



4階フロア



5階調査相談室



○平成29年度に実施した主な設備の修繕等

・5階調査相談室の壁紙の改修	240千円
・トイレの手洗い場を自動水栓に改修	335千円
・児童おはなしの部屋の天井ライトをLEDに改修	284千円
・空調機還気ファン修繕	216千円



トイレ手洗い場を自動水栓に改修



天井ライトをLEDに改修

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価		<p>29年度の事業の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全、快適性を図るため、施設維持・設備管理に努めた。 ①トイレの手洗い場を自動水栓に、児童おはなしの部屋の照明をLEDに改修し、利用者の利便性の向上を図った。 ②空調関連等でも適切に修繕を行い、館内の快適性を確保した。 					
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td></td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。			市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○	市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。	
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○						
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。							
<p>課題と改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館は平成3年であり、施設、設備の経年劣化が進んでいるため、計画的な修繕が必要である。 		<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に良好な読書環境を維持するには、修繕、改修を計画的に進めていく必要がある。 ・アステ川西の一業務床として、アステ川西管理組合の修繕の動向等も参考にしつつ、更新、改修等を実施する。 					
<p>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</p>							

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	文化財事業			決算書頁	342
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	40 ふるさと川西の文化遺産を保存・継承・活用します				
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	主幹 田中 肇	

2. 事業の目的

市内の文化財を貴重な歴史文化遺産として保護、顕彰、活用する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	29年度	28年度	比較	財源	29年度	28年度	比較
総事業費	663,863	114,886	548,977	一般財源	105,365	112,081	△ 6,716
内 事業費	596,154	46,879	549,275	国県支出金	19,387	1,500	17,887
内 職員人件費	21,662	21,781	△ 119	地方債	537,900		537,900
内 公債費	46,047	46,226	△ 179	特定財源(都市計画税)			
参考 職員数(人)	2	2		特定財源(その他)	1,211	1,305	△ 94
再任用職員数(人)	1	1					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	文化財保存啓発事業	細事業事業費(千円)	504,244		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	審議会・検討会	講座・フォーラム	団体等との共催・連携		
(2) 29年度の取組と成果					
<ul style="list-style-type: none"> 市内の文化財を指定することによって保護、顕彰、管理した。 <ul style="list-style-type: none"> ①黒川字奥瀧谷台場クヌギ群落を新たに市指定文化財(天然記念物)に指定した。 ②指定文化財の管理等に係る補助をした。 国指定史跡である加茂遺跡の保存と管理を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ①加茂遺跡の国史跡指定地のうち、約6,600㎡を公有地化した。 埋蔵文化財(遺跡)については、各種開発に対処して発掘調査を実施した。 加茂遺跡におけるこれまでの発掘調査で発見された石器をテーマに文化財講座を実施した。 文化財の普及啓発を市民と協働して推進するために、文化財ボランティア養成講座を開催した。 川西市文化財ボランティアガイドの会、加茂小学校区コミュニティ推進協議会加茂遺跡クラブとの共催で加茂遺跡スタンプラリーを企画、開催した。 					
1. 発掘調査実施件数 (単位:件)					
遺跡名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
加茂遺跡	4	5	3	4	1
その他	14	13	13	12	5
合計件数	18	18	16	16	6
合計面積(㎡)	409	172	145	130	49
2. 文化財保存啓発事業参加者数 (単位:人)					
事業名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
文化財講座	211	107	78	154	69
文化財ハイキング	16	17	7	12	32
加茂遺跡スタンプラリー	-	147	202	130	157
発掘調査現地説明会	-	-	-	-	-
文化財ボランティア養成講座	35	58	35	46	52
合計	262	329	322	342	310



黒川字奥瀧谷台場クヌギ群落

<細事業2>	文化財施設管理事業	細事業事業費(千円)	91,910		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	講座・フォーラム	団体等との共催・連携			
(2) 29年度の取組と成果					
<ul style="list-style-type: none"> 文化財施設3館(文化財資料館・郷土館・歴史民俗資料館)の管理、運営、整備、活用を行った。 文化財資料館では、市内の遺跡で実施した発掘調査で発見された遺物の整理、収蔵、展示を行い、遺跡に関わる啓発事業を実施した。加茂遺跡から出土した石器を一堂に展示する企画展「加茂遺跡大石器展」を開催した。学校教育との連携として、小学生の団体見学対応及び小学校への出前授業を実施し、トライやる・ウィークの中学生の受入れを行った。地元コミュニティとの連携を推進するために、加茂小学校区のコミュニティ文化祭に勾玉作り体験ブースを出店した。 郷土館では、国登録有形文化財である大正時代の建造物(旧平安家住宅・旧平賀家住宅)、寄贈絵画関連施設(ミュージアム・アトリエ平通)等の管理、運営、公開を行うとともに、施設主催講座や企画展示を開催し、施設活用に努めた。地域との連携のもと、東谷ズム、郷土館まつりといったイベントを開催した。旧平賀家住宅については、今後の適切な維持管理のために、塗装修繕などの大規模な修繕を実施した。郷土館の活性化、整備のために取得した用地に来館者用の駐車場を整備した。 歴史民俗資料館では、県指定重要有形民俗文化財である江戸時代の古民家2棟(旧福田家住宅・旧下堂家住宅)の管理、公開を行い、小学校の団体見学等に対応した。 					
1. 文化財施設入館者数 (単位:人)					
施設名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
文化財資料館	4,374	3,773	3,357	3,313	3,106
郷土館	6,757	8,885	9,981	10,348	9,229
歴史民俗資料館	975	877	941	1,371	1,115
合計	12,106	13,535	14,279	15,032	13,450
2. 文化財施設啓発事業参加者数 (単位:人)					
施設名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
文化財資料館	477	417	496	524	609
郷土館	404	646	1,281	672	713
合計	881	1,063	1,777	1,196	1,322



旧平賀家住宅修繕状況

5. 担当部長による自己評価及び今後の方向性等

自己評価							
<table border="1"> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性が向上した。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。</td> <td></td> </tr> </table>	市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。		市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○	市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。		<p>29年度の事業の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存啓発事業では、国指定史跡加茂遺跡の保存と活用を推進するために、史跡指定地の一部を公有地化した。市民と協働して加茂遺跡スタンプラリーを企画、開催した。 文化財施設管理事業では、市北部の魅力の一つとなっている郷土館旧平賀家住宅を適切に維持管理するために、大規模な修繕を実施した。郷土館のさらなる活性化のために取得した用地に来館者用駐車場を整備した。
市民の利便性や事業の効率性が大きく向上した。							
市民の利便性や事業の効率性が向上した。	○						
市民の利便性や事業の効率性は前年度の水準に留まった。							
<p>課題と改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財施設管理事業において、郷土館旧平安家住宅や歴史民俗資料館の歴史的建造物に経年劣化が見られる。今後、適切に維持管理していくためには、建物の全体調査を行い、計画的に修繕を進めていく必要がある。 	<p>30年度以降における具体的な方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 国指定史跡加茂遺跡については、史跡の追加指定及び公有地化を進めるとともに、遺跡を適切に保存、管理、活用していくために、今後の具体的な整備計画の策定を検討する。"ふるさと川西"意識の向上のために、天然記念物を含む文化財の保存と活用を進める。 郷土館旧平安家住宅や歴史民俗資料館といった歴史的建造物について計画的な修繕を行うために、建物全体調査の実施を検討する。 						
<small>※「課題と改善」は、「妥当性」、「効率性」、「有効性」及び「参画と協働」の視点を全て考慮したうえで、事業の質や効率性を高める方向で記述しています。</small>							

